

「FUD第7回定時総会」のご報告

平成22年4月17日(土)、「FUD第7回定時総会」が三部構成で郡山ビューホテルにて開催されました。



まず第一部の総会は、■理事長挨拶、■総会出席報告、■議長選出、■議事録署名人選出、と【次第】に沿って粛々と進められ、■議案もすべて拍手でご承認頂きましたのでここにご報告申し上げます。

<議案内容>

- 第一号議案：平成21年度事業報告及び収支会計報告・監査報告
- 第二号議案：平成22年度事業報告及び会計予算
- 第三号議案：役員改選
 <新理事> 小野沢元久（日本大学理事）
 <新理事> 今泉 玲子（今泉女子専門学校校長）
- 第四号議案：準会員会費値上げ

第二部は佐々木理事長のコーディネートで、「UDで街おこし」をテーマに新理事・理事と共に対談が行われました。県や市の取り組み等を踏まえ「これからの福島・郡山のUD運動はどうあるべきなのか」、新しい方向性を形にする為にそれぞれのご専門分野からご提案を頂きました。

■ 新理事：日本大学理事・小野沢元久様



理工系の大学で教鞭を執る中で一番強く感じることは、ものづくりに関する概念の変質です。本来ならニーズがあってシーズを提供する訳ですが、物を作る人と使う人という分業体制ができ、シーズとニーズがパラレルに進んできた為に経済が優先され、人権とい

うものが軽んじられる社会が形成されてしまったように思います。地域再生という言葉がありますが、再生という言葉には失われたものをもう一度取り戻すという意味が含まれています。こういう運動というものは「原点に立ち返る」ということが一番大切な事ではないでしょうか。ものづくりに携わる人の価値観をどう変えるかが最優先課題であると思います。

■ 新理事：今泉女子専門学校校長・今泉玲子様



核家族化が進み、自分と立場や世代の異なる人々の事を理解できなくなっている世の中で、UDファッションショーに参加させて頂いた学生達は、視野が広がり柔軟な発想ができるようになりました。例えば加齢による体型の変化、子供の動向等、常に人々の生活というものに「関心」を持ち考えることができるようになったのです。地域交流の大切さが叫ばれる中、ものづくりに携わることでいたわりの気持ちが生まれ、無関心というものが生んだ淋しい世の中を変えられたら素晴らしい事。まずは関心を持つことから始めてゆけば…。

■ 理事：高齢社会をよくする女性の会会長・青木千代美様



「まちづくりの真意」は、性別・年齢・人種・障害の有無を超えて誰もが人間の尊厳を冒されることなく、安心して生き生きと心豊かに暮らす事ができるということであると思います。ではその為にどのような取り組みが必要になってくるのかと申しますと「地域住民が主体的に地域に関わる」という事が最も大切であると感じております。官・産・民が共通認識に立った上で協働による取り組みを行ってゆけば、街は必ずよくなってゆくものと思っております。（その他「男女人権」「高齢社会」「行政の具体的政策」等もお話頂きました。）

■ コーディネーター：ふくしまユニバーサルデザイン・佐々木善壽理事長

UDは世界的に新しい潮流として様々な動きがあり、その中で日本は先頭を切っています。しかし皆様のご意見を拝聴し、世界最先端のものづくり



だけではUD社会の実現は難しいということを改めて感じました。今UD運動に最も求められている事、それは「市民のニーズを探る」「市民の責任ある参画」という事のように。

今日UDという言葉は目を覆いたくなるほど貧弱になっていると言われていて、UDが様々な言葉で代替され簡単に語られる事で、本質が見えにくくなってきているのです。しかしUDは21世紀のパラダイムシフト（思考や概念・規範や価値観が枠組みごとに移り変わる事）の最も重要なキーワードであることは間違いありません。シャングリラ（理想郷）は我々の心の中にあり、それを形にするのは我々自身です。我々市民活動が「ニーズを的確に発信」し、あるべき姿を求めてそれを形や提言にしていければ「住みよい街」はできるのだと思います。

FUDも7年を過ぎ新たな時代に入ろうとしています。皆様から頂いた貴重なご意見を糧に新年度も更にステップUPをして参りたいと思っておりますので、ご支援・ご協力の程宜しくお願い申し上げます。本日は誠に有難うございました。

懇親会「それぞれのUD観…1分間スピーチ！」

第三部の懇親会ではご列席頂いた方全員にマイクを回し、UDに対する考え方や思いを語って頂きました。「価値観を共有する為の対話の大切さ」「地域のニーズを行政に発信する為の方法論」「女性のパワーを活用したまちづくり」「心・人権・教育の問題」等々、持ち時間は約1～2分という短い時間ではございましたが、それぞれのお立場からのご発言には強いパワーが感じられました。中でも多く語られたのはやはり「UD探検隊」実施に関するもので、隊員としてご参加された方々からは「視点の違い」というお話が、また直接参加されなかった方々からも報告書（冊子）をご覧になった感想として「実践の時代」というお話を伺うことができました。最後に佐々木理事長の方からご参加ご協力の御礼が述べられ閉会となりました。

〈事務局：村岡綾子記〉

準会員の皆様へ「会費値上げ」のお願い

左記の<第一部>総会報告にございますように、この度、第四号議案「準会員会費値上げ」の了承を得て、平成22年度より準会員の皆様の会費を現行の2,000円より4,000円に値上げさせて頂くこととなりました。

経済不安が叫ばれる中、会費の値上げをお願いすることは誠に心苦しい限りではございますが、本件は「事業拡大」「ホームページの拡充」「会報製作費や様々な書簡発送費」等の経費増を理由とし、従来の会費では新事業や会員の皆様への情報提供等が困難であるとの判断によるものです。

これからも「UD社会の実現」に向けて皆様と共に邁進して参りたいと存じますので、何卒当会の厳しい財政事情をご理解頂き今後ともご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

尚、すでに2,000円をお振り込み戴いており、差額が生じた場合はご面倒でも再度お手配下さいますようお願い致します。行き違いや誤認がありましたら切にご容赦のほど願ひ申し上げます。

振り込み先

東邦銀行郡山大町支店 普通口座679454

ふくしまユニバーサルデザイン 佐々木善壽

INFORMATION | 随時情報をお寄せください! FUD-Newsに掲載します。 NPO法人ふくしまユニバーサルデザイン情報

郡山市男女共同参画フェア参加

吉成夏子記

平成22年2月26～28の3日間、郡山市文化センターにて、参画プラザを拠点に活動する団体が参加して開催されました。

今回FUDと高齢社会を考える女性の会のみなさんと共同出展の形となりました。赤い羽根助成事業の「UD探検隊」の写真パネルに興味を持つ人が多くいらっしゃいました。



平成 21 年度赤い羽根共同募金助成事業 「UD探検隊」報告会を開催しました！

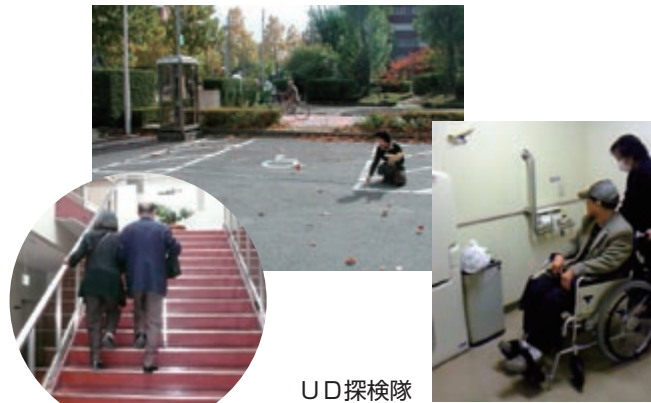
昨年の10月27日に実施された「UD探検隊」の報告会が、42名の参加者とマスコミを迎えてビッグアイにて開催されました。まず第1部ではNPO法人ふくしまユニバーサルデザイン理事長より報告があり、今回の事業趣旨、報告書(冊子)の見方をご説明し、評価にあたっては幾重にも調査・考察したことをご理解頂いた上で「UD達成度」がどのようなものであったのか、実情を報告させて頂きました。



UDは時代とともに変遷しており、建設・改築時期の新しい施設が高い評価となることは否めませんが、UD達成度ランキング第一位に「郡山駅」が選ばれたことは郡山市民として喜ばしいことであり、皆様様にご納得のご様子でした。最後にご協力頂いた皆様方に更なるお力添えをお願いし、第1部は終了となりました。



続いて行われた第2部の「UDトークショー」は、日本大学理事・小野沢元久先生にコーディネーターをお願いし、4人のパネラーの方にUD探検隊に参加した感想等をお聞きしながら、「UD社会の実現に向けて」今のようなことが市民活動に求められているのかを熱く語り合っていました。その一部をご紹介します。



UD探検隊

■高齢社会をよくする女性の会 副会長 石井 トキ 様

私達のグループは健常者2名、車椅子の方が2名、日大生の方1名の計5名で3か所の公共施設を探検させて頂きました。そこで感じたことは「私達(健常者)の目線で物づくりが行われてきたんだな。」ということです。これからは設計段階から市民が参画し、障がいの有無を問わず若男女皆様が満足の得られる施設にしてゆけたら…と思えました。すぐに現状を改善することは出来ないかもしれませんが「気付き」は原点であると思います。それぞれの気付きを声にし、山積している問題の中で我々に一番必要なことは何んであるのかを市民の皆さんで話し合い活動してゆくことが大切であると実感致しました。



■ NPO 中間支援センターなかネット 岩崎 大樹 様

私は「人間が人間らしく住めるまち」というものを研究しております。今回UD探検隊の報告書のまとめ作業のお手伝いをさせて頂き、(報告書から)郡山市のUDはハードの面では着実に進んでいるんだなという印象を受けました。次はソフト面、コミュニケーション面での展開が必要になってくるのではないかと考えております。一部の人の意見が取り上げられるような従来型の仕組みではなく、市民同士がコミュニケーションを取って補完し合いながら今迄になかったことを考案し、実践に結び付けられるような仕組みの構築が今後の課題ではないかと思っております。



■日本大学工学部・建築学科 相田 早紀 様

私も車椅子の方と一緒に探検をさせて頂きました。自分の視点で見えようと気付くことができない事が沢山あったのですが、車椅子の方に使い勝手をお訊ねしてみても「嗚呼、こういう些細な事が使いにくいと感じるのだな。」と知ることができ大変勉強になりました。報告書に書かれているような建築の基準などは大学で勉強しているのですが、基準をクリアしていても不便に感じるところがまだあることを知ることが出来た事も大きな学びでした。評価から見えた反省点・改善点を次に繋げ、反映させてゆくことが大切であると感じました。



〈事務局：村岡綾子記〉

■ふくしまユニバーサルデザイン 佐々木 理事長

そろそろ啓蒙から実践へ移行しなければならない時期であると考え、今回この企画を実施した訳ですが、障がい者の方と一緒に探検をさせて頂き、その大変さが身に沁みて分りました。また8つのテーマに沿って探検させて頂きましたが、施設は様々ではない為設備の有無等様々な問題があり調査や評価に大変苦労致しました。今回が第1回目ですので次回は是非施設側の方と協働のテーブルを持ち、先に述べたような問題も話し合いをしながら「安心・安全で暮らしやすい郡山」を目指して一緒に実施できればいいなと思っております。



■日本大学理事 小野沢元久コーディネーター

作る前に様々な市民の意見の反映がなされていれば…というお話が出ましたが、こういった取り組みというのは地域を再生するためのグランドデザイン(大規模な事業などの全体にわたる壮大な計画・構想)を明確に打ち出し、それに向かって行政・議会・住民が一つになって取り組めば、もっと完成度の高いまちづくりというものができると思います。人権が保障される地域社会というのが本来の在り方です。これがある意味ではソフト的なグランドデザインであろうと思います。目指す方向が住民サイドとまったく同じ視点の社会、これが一番理想的な社会ではありますが、現実はまだなかなかそうっておりません。しかし我々も反対運動型・物取り陳情や要求型から脱却し、行政の一役を担っているんだという意識を持ち活動をしてゆくことが大切ではないでしょうか。



皆様からいろいろなお意見を頂きましたが、総合するとそこに住む住人が自らの手で住みやすい社会を作るということに尽きそうです。もちろんそこには行政の支援が必要である訳ですが、行政がイニシアチブをとるのではなく、あくまでも市民がイニシアチブをとって様々な活動を展開してゆくことが大切でありそれが「市民のための、市民の手による、地域社会作り」だと思います。まさにUDはそういう事を目指しているのではないのでしょうか。

本日は本当に沢山の貴重なご意見を有難うございました。

INFORMATION | 随時情報をお寄せください! FUD-Newsに掲載します。 NPO法人ふくしまユニバーサルデザイン情報

小学校 UD 出前講座

千代貞雄記

●2月29日 郡山市立御代田小学校 講師/瀧田勉
●3月9日 郡山市立東芳小学校 講師/千代貞雄
2月29日、御代田小学校5・6年生43名の皆さんを対象に、瀧田勉さんがUD出前講座を開催しました。3年目の同校では自販機と電子紙芝居の講座を交互に開催し現在の6年は電子紙芝居の講座も受けており、グループ発表では、面白い自販機のアイディアが発表され、学生、担当の先生からはかなり考えられた自販機の発表がされました。

紙芝居・自販機のお話の講座からUDを学んでいます。今後も継続していきたいとのことでした。

3月9日、東芳小学校5・6年生40名の皆さんに、自販機の講座を私千代が担当しました。「自動販売機のデザイン」の話のあと各グループ編成になりテーマごとの自販機をデザインしてもらいました。初めての開催でしたが、各グループ発表、先生の発表には私も、なるほどと思わせられるものが多数発表され、最後にユニバーサルデザインのお話で終了しました。



こおりやま市民活動交流フェスタ参加

小野塚彰宏記

第1回こおりやま市民活動交流フェスタ(2月6~7日郡山市労働福祉会館)が開催されました。目的は、市内の市民活動団体の活動紹介と、団体同士また市民との交流を深める機会として。初日はまちづくりハーモニー賞表彰式のほか、俳優「柴俊夫さん」によるボランティア実践の講演がありました。我々FUDは郡山市市民協働推進課と共同で、パネル・パンフレット・体験・対話等を通じてUDの意味や恩恵、必要性を来場者に感じてもらうことに努めました。体験からの気付きの重要性をこの様な機会毎に実感します。また市との協働による相乗効果も共有でき、UD推進の新たなページが創られた思いがしました。

